



48年前にこれだけの動植物園ができたことはすごい財産

8年前から佐世保に住むことになり、定年後の余生を過ごさせてもらうので、何らかの形で、佐世保市の役に立つことを考え、平成15年にサザンボスへ入隊しました。48年前にこれだけの動植物園ができたことはすごい財産だと思います。動植物園活性化計画が進んできたら、わたしたちボランティアが素人の目線で、来園者の皆さんに園内を案内できればと考えています。市民の皆さんも動植物園のため、月1回だけでもいいので、サザンボスで活動してみませんか。

サザンボス統括 武内恒夫隊長

Sasebo Zoological and Botanical Supporters

サザンボスは
動植物園を
応援しています！

動植物園と協力して、来園者に園の魅力伝える市民ボランティア「SAZANBOSU」^{サザンボス}名称は、「Sasebo Zoological and Botanical Supporters」(佐世保市動植物園応援隊)を略して命名されました。情報誌「いしだけ新聞」の企画制作、生きものクイズラリーやハーブティーサービスの運営、植物に関する講習会の受け付けなどを中心に約50人が活動しています。魅力ある動植物園づくりに熱い思いを持った隊員の皆さんの声をご紹介します。



園内を1周できるようになっているので、大人にもお勧めです

クイズラリーは3~4年前から大きなイベントごとに開催していましたが、ことしからクイズの種類を増やし、毎週日曜に開催しています(参加費100円)。1日平均50人くらいの参加があり、そのほとんどがお子さんですが、クイズを考えているうちに園内を1周できるようになっているので、大人にもお勧めです。クイズが終わったら最後に採点し、園内の動物などが描かれた絵はがき12種類のうち1枚をプレゼントしています。子どもだけでなく、大人の皆さんもぜひご参加ください。

生きものクイズラリー 石橋和子隊員



来園者や隊員が増えるきっかけになればと思って頑張っています

現在「ISHIDAKE PRESS」^{いしだけプレス}(いしだけ新聞)は、原則年4回(6、9、12、3月)発行で、主に自治会などに配布しています。多くの皆さんに読んでいただくためカラー刷りにこだわっていますが、毎回経費を工面するための広告集めには苦労しています。動植物園は市民の財産なので、園のことにもっと興味をもってもらい、来園者やサザンボス隊員が増えるきっかけになればと思って頑張っています。いしだけ新聞の「いしだけ事件簿」はお勧めですので、ぜひご覧ください。

いしだけ新聞 古賀巖隊員



ツシヤママネコ²
長崎県対馬にだけ生息する野生のネコで、約10万年前に当時陸続きだった大陸から渡ってきたと考えられている。大きさは飼いネコと同じくらいで、体に斑紋があり、しっぽが太くて長い特徴がある。自然環境の悪化や交通事故などにより、個体数の減少が著しく、1971年に国の天然記念物、1994年に国内希少野生動植物に指定されている。(写真提供 対馬野生生物保護センター)

環境省が最も絶滅の恐れが高い種に分類している「ツシヤママネコ」(野生は約90頭生息)は、平成18年から病気感染に対応するため全国の4つの動物園で分散飼育を行っています。来年から同園でも飼育・繁殖に取り組み計画で、園の山側に飼育・繁殖施設^⑥を設置します。
飼育・繁殖施設は来年3月末ごろ完成予定(見学は平成23年完成予定の展示施設オープン後に可能)で、完成後はツシヤママネコの現状を紹介するほか、飼育・繁殖が成功すれば、対馬への野生復帰も目指します。

ツシヤママネコの飼育・繁殖

このゾーンは来年3月末ごろ完成予定で、これまでの「ふれあい広場」よりもっと身近に動物たちを体感できる施設となります。

来年3月完成「ふれあいゾーン」

ふれあいゾーン^①には、ヒツジ・ヤギとふれあい餌やり体験ができる広場や、ウサギ・モルモットとふれあえる施設「リトルガーデン」のほか、ミアキャット、プリーリードッグ、モグラの野生の行動が見学できる行動展示場「土の城」、生き物について学べる「学習ホール」などを造ります。また長崎県固有種の家畜「対州馬」「シバヤギ」、家禽「ツシマヒゲジドリ」の飼育に取り組み、人と動物の歴史などを紹介することも考えています。